



KARASUYAMA

鳥山

今

Past and Present

昔

散歩

WALKING

なぞなぞ
6
ウォーキング



鳥山地域をウォーキングしながら
なぞなぞに答えよう！

なぞの答えの中に隠れている
キーワードをつなぎ合わせると
ミッションが浮き出てくるよ！

烏山今昔 WALKING 散歩

KARASUYAMA Past and Present



妙壽寺



源正寺



下山地蔵尊



北烏山九丁目屋敷林市民緑地

北烏山九丁目
屋敷林市民緑地

高源院

下本宿通り

北烏山四丁目 北烏山二丁目

稱往院

源正寺

妙壽寺

北烏山五丁目

寺町通り区民集会所

中央自動車道 北烏山三丁目

烏山用水・
下山地蔵尊

北烏山
三丁目公園

甲州街道

スタート

烏山下宿広場・
旧山本農機

上北沢五丁目

給田四丁目

旧甲州街道

烏山区民センター

ゴール

南烏山五丁目

南烏山一丁目

まち歩き →

この地図の作成に当たっては、国際航業株式会社の承諾を得て、国際航業株式会社に著作権が帰属する白地図データベースを使用しています。

なぞ

1

昔の烏山について考えよう!

昔の烏山は どんな風景だった?

- ① 切り花用の温室が建ち並ぶ風景
- ② 麦畑が広がる風景
- ③ 広々としたゴルフ場のある風景

答えはページの下

昭和11年10月に千歳村は砧村と共に世田谷区に合併されました。以前は「東京府北多摩郡千歳村おおあざ大字烏山」といい、この写真はその頃撮影されたものです。千歳村は江戸時代から農村地帯で、野菜や穀物を江戸東京の中心部へ供給する役割を担っていました。

キーワード

麦畑の「む」

P24へGO!



千歳村田園風景
『東京市域拡張誌』より

なぞ1の答えは ② 麦畑が広がる風景

なぞ

2

コメはコメでも 畑で栽培するコメを なんというでしょう?

- ① オカボ
- ② コメダ
- ③ エクボ

答えはページの下

江戸時代の地誌に、烏山村の田んぼは「水田わずかに1割は陸田りくでん」と書かれています。畑で栽培される稲いね（陸稲りくとう）はオカボと呼ばれ、戦前まで大麦について作付けや収穫高の多い農産品でした。



オカボ(陸稲)
郷土資料館蔵

キーワード

オカボの「か」

P24へGO!

なぞ2の答えは ① オカボ

なぞ

3

烏山で誕生した「下山千歳白菜」という白菜の特徴は？

- ① 旬が夏
- ② 病気に強い
- ③ 水がなくても育つ

答えはページの下

冬が旬の白菜は明治中期に中国から日本に伝来し、東京では明治末から大正初期にかけて栽培が盛んになったといわれています。千歳村の特産となったこの白菜は、下山家によって改良が進められ、高さ40cm、重さ4kgもあり大型で、病気にも強かったことから、注目を集めました。

キーワード

白菜の「い」

P24へGO!



下山千歳白菜を手にする
故・下山義雄さん
郷土資料館蔵

なぞ3の答えは ② 病気に強い

なぞ

4

烏山を通る江戸時代の街道は何と呼ばれていたでしょう？

- ① しまなみ街道
- ② 甲州街道
- ③ 東海道

答えはページの下

甲州街道は、江戸幕府によって慶長15年(1610)頃までに整備された街道で、江戸日本橋を起点とし、甲府(現・山梨県)を経て、下諏訪(現・長野県)に通じていました。主に参勤交代や京都から新茶を将軍へ献上するためのお茶壺道中、庶民の往来に利用されました。

キーワード

甲州街道の「う」

P24へGO!



甲州街道
『東京市域拡張誌』より

なぞ4の答えは ② 甲州街道

烏山はその土地柄、「○の宿」と呼ばれていました。次のうちどれでしょう？

- ① 間の宿
- ② 雪の宿
- ③ 烏の宿

答えはページの下

烏山は、東は高井戸宿（現・杉並区）、西は布田宿（現・調布市）の間に位置していたので、俗に「^{あい}間の^{しゆく}宿」と呼び、現在の南烏山六丁目は「上宿」、四丁目は「中宿」、三丁目は「下宿」という地名で呼ばれていました。江戸時代の紀行文『遊歴雑記』には、「ひと休みできる飲食店もあり、料亭『^{とよくら}豊倉』でのもてなしは旅人に大絶賛された」とあります。甲州街道沿いでは、早くから商いをして生活する人々がいたようです。

★ワード
あい しゆく
間の宿の
「し」
P24へGO!



昔の地名が残るバス停

なぜ5の答えは ① 間の宿

コラム① 旧甲州街道沿いの風景を探して

芦花公園駅の改札を出て旧甲州街道に出ると、ケヤキの繁った烏山下宿広場に出ます。街道沿いを西に進むと、山本農機具店が見えてきます。山本農機具店は、昭和17年(1942)に建築された、街道筋の商家に多く取り入れられた出桁づくりが特徴的な木造の建物です。

ところで、この周辺の地図を眺めると、敷地が街道沿いに面して南北に続いていることが伺えます。街道沿いの家々は、土地の区画がきちりと分けられ、間口が狭く、奥行き長い短冊形の地割となっており、かつての烏山の村の様子を今に伝えています。

街道をさらに千歳烏山駅に向かって進むと、「烏山下宿」のバス停付近の交差点脇に、石仏が静かに佇んでいます。真ん中の地蔵尊は「身代わり地蔵」、「出世地蔵」と言われ、正徳2年(1712)に当時の烏山村の名主を勤めた下山氏や烏山村の人々の発願によって建てられました。下山氏は昔から村の発展に寄与した一族であることから、この地蔵尊は「下山地蔵」とも呼ばれています。地蔵尊の隣には、江戸時代の庚申塔が3基建てられています。いずれも「烏山村」という銘文が彫られており、村の講中によって建てられたと考えられます。



山本農機具店
区の「地域風景資産」にも
選定されています

下山地蔵尊と庚申塔3基



なぜ

6

烏山寺町について考えよう!

烏山寺町にはたくさんのお寺が集まっています。いくつの寺院が集まっているのでしょうか?

- ① 26
- ② 49
- ③ 108

答えはページの下

烏山寺町は寺町という名前の通り、26もの寺院が集まって一つの町を形成しています。大正12年(1923)に起きた関東大震災を契機として、戦後にいたるまで都心部の寺院が多く移転してき

ました。移転計画は震災前にもあり、徳富蘆花の『みみずのたはこと』には、京王線敷設のための用地買収の話とともに寺町移転が話題になっています。



烏山寺町の航空写真
この地図の作成に当たっては、国際航業株式会社に著作権が帰属する航空写真を使用しています

なぜ6の答えは ① 26

なぜ

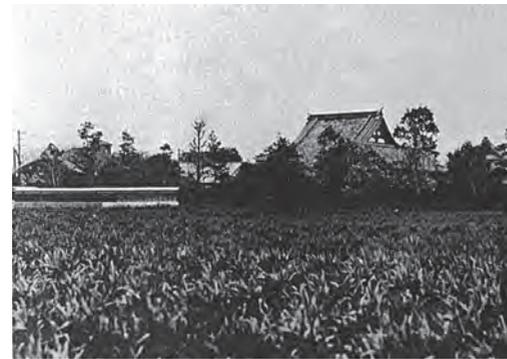
7

なぜ烏山にお寺が集まるようになったのでしょうか?

- ① 昔からお寺が集まっていた土地だったため
- ② 近くに檀家さんが多く住んでいたため
- ③ まとまった広大な土地が手に入ったため

答えはページの下

近代以降、東京の都心部には住宅地が密集し工場もたくさん作られ、さまざまな都市問題が起こりました。明治中頃に公布された「東京市区改正条例」により、都心部の寺院は郊外への移転を促されます。関東大震災の後、烏山以外にも松原や若葉町(調布市)、練馬(練馬区)などにも郊外移転による寺町が形成されました。



寺町寺院付近
『東京市域拡張誌』より

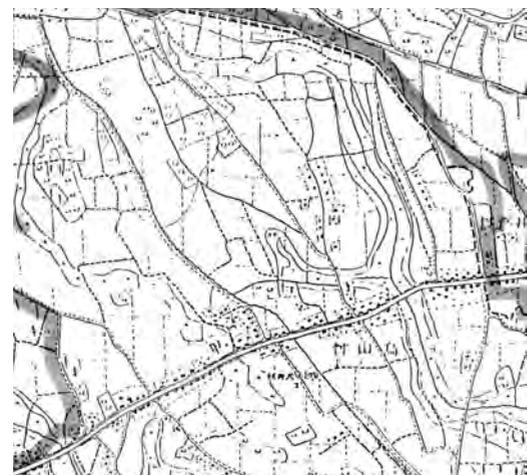


なぜ7の答えは ③ まとまった広大な土地が手に入ったため

寺町移転と 市区改正計画

烏山寺町の移転計画は、実は関東大震災以前からあり、計画の元をたどると明治21年(1888)に公布された「東京市区改正条例」に辿り着きます。

明治22(1889)年には内務省・東京府により「東京市区改正設計」が作成され、「道路・河川・橋梁・公園・鉄道・屠場・火葬場・墓地等の都市施設の改善・新設」が決定します。この決定により、都市部では道路の拡張整備が始まり、墓地の郊外移転も促されたことから、寺院ごと移転する例が出てきます。しかし、この市区改正は、事業規模が大きかったためなかなか進まず、事業が縮小される形で少しずつ進められ、市場や下水道などが未完成のまま大正7年(1918)に事業完了となりました。大正9年(1920)になると市街地建築物法と都市計画法が施行され、今までの市区改正を引き継ぐ形で都市計画が進められるようになります。



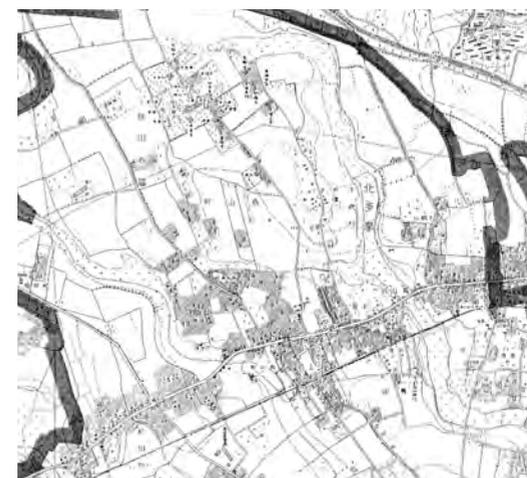
明治14年の北烏山
寺町ができる前。周りには農地が広がる

この期間に形成された寺町には、上高田(中野区)、梅里(杉並区)、松ノ木(杉並区)、高円寺南(杉並区)などがあります。

そして、大正12年(1923)9月1日、午前11時58分、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9という大地震が関東地方を襲いました。昼時だったこともあり、東京では大火災が発生して多くの犠牲者が出てしまいました。この震災をきっかけに、東京都心部の都市計画は「帝都復興計画」として再び加速し、市街地の整備が進められるようになります。また、震災以降、都市部に住

んでいた人々の中には、火災被害の大きかった住宅密集地や乱立する工場の煙などを避けるために、自ら郊外へ移り住む者も出てきました。震災前まで多くが農地であった世田谷は、新しく開通した鉄道駅の周辺や都心に近いエリアで急速に住宅地化が進みました。しかし、都心から離れていた烏山はまだ農地や荒地の広がる農村地域でした。

昭和4年 寺町が移転してくる。周辺には何も無いのが分かる



昭和4年 寺町が移転してくる。
周辺には何も無いのが分かる

都心部から少し離れた郊外に、「帝都復興計画」で行われた東京市街地の区画整理によって、浅草、築地、本所、深川など市内の多くの寺院が移転を促されます。区内では松原や北烏山に寺院が集まりました。北烏山は、周りに民家がないため、火災の心配もなく、農地としても利用されていない土地であったことから、この場所が移転先として選ばれたと考えられます。



昭和30年
駅周辺の住宅地化が進んでいる

※古地図は『世田谷古地図』
(都市デザイン課発行)を用いた。

なぞ

8

烏山寺町の 周辺に分布している ちゅうすい・ちゅうみず 「宙水」という地下水の 特徴は？

- ① ごく浅い地下水
- ② 大変水量の多い地下水
- ③ 火星の水に似た地下水

答えはページの下

世田谷の台地に厚く堆積するローム層の中に滞水^{たいすい}するごく浅い地下水は「宙水」と呼ばれ、容易に取水が可能なることから、烏山寺町の多くの寺院も井戸水として利用しています。また、高源院の弁天池も、宙水を水源としています。



宙水を水源とする高源院の弁天池

なぞ8の答えは ① ごく浅い地下水

なぞ

9

烏山寺町に イチョウなどの高木が 多く見られるのは なぜ？

- ① 原生林が残っている
- ② 鳥が種を運んできた
- ③ 各寺院が移転後に植えた

答えはページの下

ケヤキやイチョウなど、烏山寺町に多く見られる高木は、元は荒れ地であった寺町に移転してきた各寺院が植栽し、町ぐるみで保全に取り組んできました。「世田谷の小京都」とも呼ばれる寺町の環境は、地域の努力と協力で生まれ、守られています。



移転した当時(昭和4年ごろ)の妙壽寺
(現在の妙壽寺はP17を参照)
『妙壽寺客殿-旧鍋島邸』より

なぞ9の答えは ③ 各寺院が移転後に植えた

キーワード
地下水の
「す」

P24へGO!

キーワード
各寺院の
「か」

P24へGO!

コラム③

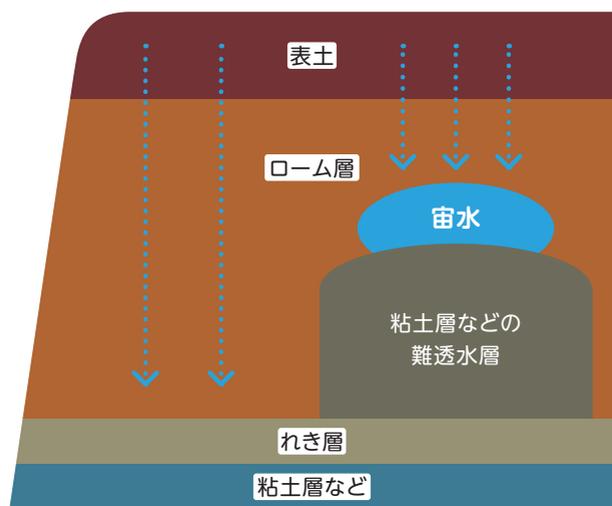
ちゅうすい・ちゅうみず 烏山寺町の宙水

世田谷の台地には、富士山などの火山灰が堆積した「ローム層」が10m近くの厚さで広がっています。

ローム層は水を通しやすく、降雨は更に深い地層に浸透しますが、ローム層の下部に粘土質の難透水層が存在する場合、地表から2～4mのローム層内部に地下水が滞水することがあります。この地下水を「宙水」と呼び、世田谷区内では、北西部の烏山地域のほか、世田谷地域にも分布しています。

烏山寺町周辺は宙水の水位がとくに高く、地表から1m程で地下水に到達するため、井戸水は生活用水として利用されています。高源院の弁天池は、宙水の水位が池の水位であり、寺町の象徴といえる風景は、宙水の恩恵といっても過言ではありません。

近年、宅地化により宙水の水源となる雨水の浸透量が減少しており、地下水位も低下しています。宙水の恵みを維持するためには、雨水の浸透面を増やしていく必要があります。



宙水の仕組み模式図

コラム④

烏山寺町とみどり

烏山寺町が「世田谷の小京都」とも呼ばれるのは、26もの寺院が集まっていることだけが理由ではありません。

烏山寺町にはケヤキやイチョウなどの高木が多く、境内の庭園と相まって、重層的なみどりの風景を生み出し、寺町の落ち着いた雰囲気を作り一層際立たせています。

このような多様なみどりは、荒れ地が広がっていた寺町に移転してきた各寺院が積極的に植栽し、育てることによって形成されました。さらに昭和50年、烏山寺町では守り育ててきた良好な環境を守り、向上させていくことを目指し、「烏山寺町環境協定」を結び、各寺院が順守していくことを約束しました。協定には、みどりの維持と育成を図ることに加え、烏山寺町特有の水資源である「宙水」を保全していくための条項も盛り込まれています。

このように、烏山寺町の良好な環境は、寺町の寺院が自ら作り上げ、地域ぐるみで守ってきたからこそ、維持されているのです。



現在のみどり豊かな妙壽寺

なぜ

稱往院の逸話にでてくる食べものとはなんでしょう？

- ① まんじゅう
- ② そば
- ③ みずあめ

答えはページの下

江戸時代中期、浅草の「稱往院」のお寺に、道光庵という末寺がありました。その庵主は信州出身の蕎麦打ち名人で、檀家たちに蕎麦を振舞っていたところ、いつしか評判となり、江戸・京都・大坂の麺類の部で上位に挙げられるほどになります。天明の飢饉では、飢えに苦しんでいた人に蕎麦を振舞いました。蕎麦屋は繁盛にあやかろうと屋号に「〇〇庵」と名付けるようになります。

「〇〇庵」発祥の石碑
 稱往院の境内に、
 天明6年(1786)丙午春正月二十五日建立



一回
休み

なぜ10の答えは ② そば

なぜ

妙壽寺の「客殿」は和室なのにどうして天井が高い？

- ① 屋根裏を有効利用するため
- ② 椅子式の生活にも対応するため
- ③ 3階建てを改修して2階建てにしたため

答えはページの下

妙壽寺では烏山への移転に際し、庫裏として旧蓮池藩鍋島家から麻布狸穴^{まみあな}にあった住宅を譲り受け、後に客殿として使われることとなりました。客殿は和風の建物ですが、明治期より上流階級の中で西洋風の生活様式が取り入れられるようになり、大広間の天井高を高くし、椅子式の利用にも対応できる空間になっています。



妙壽寺客殿の2階座敷
清水襄 撮影

※フーン
椅子式の「の」

→ P24へGO!

なぜ11の答えは ② 椅子式の生活にも対応するため

源正寺にある、 これはなんでしょう？

- ① お湯を沸かす釜
- ② 食べ物を保存する籠
- ③ 雨水を貯める桶

答えはページの下



本堂の左右に
置かれている
(左は釜六の作、
右は釜七の作)

源正寺の本堂の前に、防火のため雨水を貯めておく天水桶が一对あります。これは、天保4年(1833)に鋳物師・釜六(太田六右衛門)と釜七(田中七右衛門)が制作したものです。鋳物師とは、「生活道具の鍋・釜、仏像等を製造する職人」のことです。代々の釜六・釜七は、日用品から梵鐘・天水桶等に至るまで様々な作品を手掛けました。

キーワード
雨水をの
「を」

P24へGO!

なぞ12の答えは ③ 雨水を貯める桶

昔の思い出写真

Photos of Old Memories

少し昔の昭和30年代にタイムスリップしてみましょう。

京王電気軌道(現・京王電鉄)が開通し、この場所に駅が作られたのは大正2年(1913)のことで、当初は烏山駅という名称でした。昭和4年(1929)に現在の千歳烏山という駅名に改称しました。戦後になると住宅地化が進み住民が増加したことで商店街が発展し、現在も、地域の人々の生活に欠かせない存在として賑わいを見せています。



開発前の農地が広がる風景



千歳烏山駅



賑わう駅前の商店街



昭和36年頃(1961)の
旧甲州街道の様子

郷土資料館蔵

Photos of
Old Memories

烏山寺町の仏教会一覽

寺院名	所在地	宗派	旧所在地(現住所)
妙高寺	北烏山6-23-1	日蓮宗	浅草今戸
多聞院	// 4-12-1	真言宗豊山派	淀橋角筈
乗満寺	// 5- 7-1	真宗大谷派	浅草松葉町
入楽寺	// 5- 7-1	真宗大谷派	浅草北松山町
常栄寺	// 4-13-1	浄土真宗本願寺派	築地寺内
源正寺	// 4-14-1	浄土真宗本願寺派	築地寺内
幸龍寺	// 5- 8-1	日蓮宗	浅草新谷町
存明寺	// 4-15-1	真宗大谷派	麻布富士見町
稱往院	// 5- 9-1	浄土宗	浅草芝崎町
妙祐寺	// 4-16-1	浄土真宗本願寺派	渋谷宮益坂
宗福寺	// 5-10-1	浄土宗	日暮里
永隆寺	// 4-17-1	法華宗	本所太平町
浄因寺	// 5-11-1	浄土真宗本願寺派	麻布三河台
善行寺	// 5-14-1	浄土真宗本願寺派	築地寺内
萬福寺	// 5-13-1	浄土真宗本願寺派	築地寺内
妙善寺	// 5-12-1	浄土真宗本願寺派	築地寺内
妙壽寺	// 5-15-1	法華宗本門流	本所猿江町
専光寺	// 4-28-1	浄土宗(単立)※	浅草北松山町
永願寺	// 4-29-1	真宗大谷派	浅草清島町
高源院	// 4-30-1	臨濟宗大徳寺派	品川
源良院	// 4-10-1	浄土宗(単立)※	浅草神吉町
妙揚寺	// 4- 9-1	日蓮宗	谷中天王寺
玄照寺	// 4-21-1	日蓮宗	白金三光町
常福寺	// 2- 8-1	顕本法華宗	浅草吉野町
西蓮寺	// 2- 7-1	真宗大谷派	三田北寺町

※単立：
宗派に属するが
本山を持たない寺院



なぞの答えに隠れていた
キーワードをつなぎあわせよう。
ミッションが浮き出てくるよ!

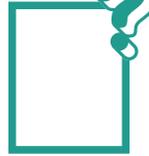
なぞ9



P15



なぞ8



P14



なぞ7



P11

なぞ11



P19

なぞ3



P06

なぞ7



P11

なぞ1



P04

なぞ2



P05

なぞ6-1



P10

なぞ12



P20

なぞ5



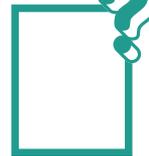
P08

なぞ6-2



P10

なぞ4



P07

なぞなぞ
ウォーキング

⑥

烏山今昔散歩

発行 令和6年11月

世田谷区教育委員会事務局 生涯学習課文化財係

TEL 03-3429-4264 FAX 03-3429-4267

編集協力 場所づくり研究所プレイス